



【写真左から】佐藤さん、山田村長



日々のレッスンの成果を発揮して優勝しました！ 第18回「ホオナネア・フラ・コンペティション」

8月17日・18日に東京都大田区で行われたフラダンスの大会、第18回「ホオナネア・フラ・コンペティション」に出場し、ワヒネ部門(19歳以上39歳以下の女性)で優勝した佐藤花音さん(亀下)が、9月18日、村長へ報告に訪れました。今大会での優勝のほか、フラの本場ハワイのハワイ島ヒロで開催される、フラ界最大の祭典でフラ界のオリンピックとも称される「メリー・モナーク・フェスティバル」にも出場経験のある佐藤さん。「前回出場したときは2位だったので、今回優勝できてうれしかったです。11月には全日本フラ選手権に出場するので、そこでも優勝を目指して頑張りたいです」と今後の意気込みを話しました。

【写真左から】小林センター長、山田村長



まちづくりのパートナーとして子どもたちの支援や人材育成を 村とJ-PARCセンター(大強度陽子加速器施設)が連携協定を締結

9月28日、J-PARC施設公開2024の会場で、山田修東海村長と小林隆J-PARCセンター長が連携協定書に署名しました。締結式では、「J-PARCには無限の可能性がある。特に未来を担う子どもたちの育成に一緒に取り組んでいきたい」と話した山田村長と、「子どもの教育と人材育成は私たちの重要な使命の一つであり、J-PARCの成果や人材を通して地域社会の発展に寄与したい」と話した小林センター長。現在、村とJ-PARCでは、小中高生が参加する「宇宙線ミュオンで村内の古墳を透視するプロジェクト」も進行中ですが、今後は、まちづくりのパートナーとして、さらなる子どもたちへの教育支援や地域社会の発展など、共に取り組んでいきます。
※「広報とうかい」(9月10日号)でJ-PARCを紹介しています。

村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。



東海村の経験から 住民参加のあり方を考える

一橋大学教授 田中 良弘

東海村の皆さま、こんにちは。私は、平成30(2018)年度に地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業のご支援をいただき、原子力分野における住民参加制度のあり方について研究を行いました。



地域社会における住民参加の重要性が指摘されて久しいですが、それまで、原子力の特殊性に着目して住民参加が行政等の意思決定に与えた影響を分析し、あるべき住民参加制度の検討を行った研究は存在しませんでした。

幸いにも、東海村の皆さまにインタビュー等で多

大なご協力を賜り、そこから得られた知見をもとに全国各地で調査を実施したことで多くの示唆を得ることができました。その成果は、山田修東海村長にもご登壇いただいた国際シンポジウム「原子力分野における住民参加のあり方」(新潟大学、平成31(2019)年1月13日)や「平成30年度TOKAIサイエンスフォーラム」(東海村、平成31(2019)年2月16日)にて公表するとともに、令和4(2022)年には、その後の成果を取りまとめ、田中良弘編著『原子力政策と住民参加 一日本の経験と東アジアからの示唆』(第一法規)を出版いたしました。

同書は、行政法や環境法、国際法、行政学、政治史など、さまざまな専門分野の研究者が執筆者となり、また、日本だけでなく台湾や韓国、中国出身の研究者が各地域の原子力政策を踏まえつつ住民参加について論じており、学際的・国際的な観点から原子力分野における住民参加を論じたものとして高い評価を受けましたが、平成30(2018)年度に実施した研究がなければ同書が世に出ることはありませんでした。改めまして、東海村の皆さまのご支援とご助力に心より感謝申し上げます。 報告書はこちら▶



【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)